

80年代末、『無秩序/ディスオーダー』で鮮烈なデビューを飾って以来、第33回フランス映画祭でお披露目される最新作『クレムリンの魔術師』に至るまで、オリヴィエ・アサイヤスは、フランス映画の枠や国境を軽やかに越境しながら、さまざまなスケールやジャンルに挑戦し、映画の“現在形”を探求し続けてきました。若者たちの疾走する身体の運動と、その時代特有の空気が鮮やかに刻み込まれている『5月の後』。マギー・チャンを迎え、サイレント活劇映画へのオマージュを捧げた『イルマ・ヴェップ』。『デーモンラヴァー』や『カルロス』では、国境を越えて拡散する欲望と暴力が、スリリングかつ批評的な視点から描き出されています。そして『感傷的な運命』や『8月の終わり、9月の初め』、『夏時間の庭』、『アクトレス〜女たちの舞台〜』では、記憶や経験が新たな時間へと手渡されていく過程が、静かに、しかし確かな強度をもって描かれていきます。本特集では、時代とともに呼吸し続けるこの映画作家の全貌に迫ります。



[上映スケジュール Calendrier]

3/18 (水)	16:00	<b>たぶん悪魔が</b> <i>Le Diable probablement</i> (97分) 上映後、オリヴィエ・アサイヤスとのディスカッションあり suivi d'une discussion avec Olivier Assayas
	19:30	<b>5月の後</b> <i>Après mai</i> (122分) 上映前、オリヴィエ・アサイヤスの作品紹介あり précédé d'une présentation par Olivier Assayas
3/19 (木)	13:30	<b>8月の終わり、9月の初め</b> <i>Fin août début septembre</i> (112分)
	16:30	<b>クリーン</b> <i>Clean</i> (111分)
3/20 (金・祝)	19:00	<b>無秩序/ディスオーダー</b> <i>Désordre</i> (91分)
	11:00	<b>カルロス 第1部</b> <i>Carlos 1<sup>er</sup> épisode</i> (104分)
	13:30	<b>カルロス 第2部</b> <i>Carlos 2<sup>ème</sup> épisode</i> (112分) 上映後、オリヴィエ・アサイヤス監督と黒沢清監督の トークショーあり suivi d'une discussion avec Olivier Assayas et Kiyoshi Kurosawa
3/21 (土)	18:00	<b>カルロス 第3部</b> <i>Carlos 3<sup>ème</sup> épisode</i> (124分)
	11:00	<b>8月の終わり、9月の初め</b> <i>Fin août début septembre</i> (112分)
3/22 (日)	13:45	<b>デーモンラヴァー</b> <i>Demonlover</i> (121分)
	16:30	<b>クリーン</b> <i>Clean</i> (111分)
	19:00	<b>イルマ・ヴェップ</b> <i>Irma Vep</i> (98分) <b>イルマ・ヴェップ 第1話&amp;第2話</b> <i>Irma Vep Ep. 1&amp;2</i> (55分+52分) 上映後、山崎まどかさんのトークショーあり suivi d'une discussion avec Madoka Yamasaki

3/27 (金)	16:30	<b>夏時間の庭</b> <i>L'Heure d'été</i> (102分)
	19:00	<b>アクトレス 女たちの舞台</b> <i>Sils Maria</i> (124分)
3/28 (土)	11:00	<b>5月の後</b> <i>Après mai</i> (122分)
	13:45	<b>無秩序/ディスオーダー</b> <i>Désordre</i> (91分)
3/29 (日)	16:00	<b>感傷的な運命</b> <i>Les Destinées sentimentales</i> (180分) 上映後、大寺眞輔によるレクチャーあり suivi d'une conférence par Shinsuke Odera
	11:00	<b>カルロス 第1部</b> <i>Carlos 1<sup>er</sup> épisode</i> (104分)
4/3 (金)	13:30	<b>カルロス 第2部</b> <i>Carlos 2<sup>ème</sup> épisode</i> (112分)
	16:00	<b>カルロス 第3部</b> <i>Carlos 3<sup>ème</sup> épisode</i> (124分)
4/5 (日)	19:00	<b>アクトリス 女たちの舞台</b> <i>Sils Maria</i> (124分)
	16:30	<b>イルマ・ヴェップ</b> <i>Irma Vep</i> (98分)
4/3 (金)	19:00	<b>デーモンラヴァー</b> <i>Demonlover</i> (121分)
	11:30	<b>夏時間の庭</b> <i>L'Heure d'été</i> (102分)
4/5 (日)	14:00	<b>感傷的な運命</b> <i>Les Destinées sentimentales</i> (180分)
	18:00	<b>たぶん悪魔が</b> <i>Le Diable probablement</i> (97分)

入場料金：一律 **1,100** 円  
但しトークショー、レクチャーのある回は **1,500** 円 (全席自由/チケット番号順)  
Peatixにて発売中  
<https://ifjtokyo.peatix.com/events>

窓口販売はございませんのでご注意ください  
上映開始15分前開場：上映開始10分後以降の入場はご遠慮下さい



第33回  
フランス映画祭 2026

2026年3月19日(木)~3月22日(日) 全4日間

会場 Bunkamura ル・シネマ 渋谷宮下、ユーロライブ

電子チケットサービス「teket(テケット)」にて発売中。  
座席指定券2,200円(税込)

詳細および注意事項は映画祭公式サイトをご確認ください。

主催：ユニフランス | 共催：在日フランス大使館 アンスティチュ・フランセ | 特別協賛：アニメーション | オフィシャルパートナー：東急ホテルズ | 特別協力：Bunkamura | 協力：ユーロスペース、一般社団法人渋谷MICE協会、一般財団法人渋谷区観光協会 | 後援：渋谷区

[公式HP] <https://www.unifrance.jp/festival/2026/>

オリヴィエ・アサイヤス特集2026——映画の現在形(第33回フランス映画祭 関連企画)  
主催：アンスティチュ・フランセ | 助成：アンスティチュ・フランセ本部、CNC | 特別協力：ユニフランス、ヴォルテックス・ストゥラ | フィルム提供及び協力：アレナ・フィルム、フィルム・アン・ストック、レ・フィルム・デュ・ロザンジュ、ゴーマン、HBO、マーズ・イド・フィルムズ、MK2、ザ・フィルム・エイジェンシー、トランスフォーマー、U-Next  
Rétrospective Olivier Assayas 2026 : le temps présent du cinéma  
À l'occasion du Festival Film Français | Organisé par l'Institut français de Tokyo | Avec le soutien du CNC et d'Unifrance et en collaboration avec Vortex Sutra | Remerciements : Arena Films, Film en stock, les Films du Losange, Gaumont, HBO, Mermaid Films, MK2, The Film Agency, Transformer, U-Next

[会場・お問い合わせ]

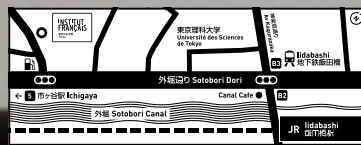
東京日仏学院

〒162-8415  
東京都新宿区市谷船河原町15

TEL 03-5206-2500

FAX 03-5206-2501

Facebook : instituttokyo | Instagram : institut\_tokyo | X : institut\_tokyo



À l'occasion du 33<sup>e</sup> Festival du Film Français

# Olivier 2026

## Rétrospective Assayas

*le temps présent du cinéma*



## オリヴィエ・アサイヤス 特集 2026

### 映画の現在形 [第33回フランス映画祭 関連企画]

2026.3.18(水)——4.5(日)

東京日仏学院 エスパス・イマージュ

Du 18 mars au 5 avril 2026 à l'Institut français de Tokyo

[ゲスト] オリヴィエ・アサイヤス | 黒沢清 | 大寺眞輔 | 山崎まどか

Invités : Olivier Assayas | Kiyoshi Kurosawa | Shinsuke Odera | Madoka Yamasaki



## 【上映作品 Programme】



Désordre ©Vortex Sutra

### 無秩序／ディスオーダー *Désordre*

[1986年／フランス／91分／カラー／デジタル]

出演：ヴァデック・スタンチュック、アン＝ジゼル・グラス、リュカ・ベルヴォー、レミ・マルタン

ロックバンドのメンバーであるイヴァン、アンヌ、アンリ。ある日、彼らは出来心から楽器を盗もうとする。しかしその愚かな企ては思わぬ悲劇へと転じ、誤って店の主人の命を奪ってしまう。事件は露見せず、警察に疑われることもない。だが、その日を境に、三人の運命は静かに、そして決定的に狂い始める。アサイヤスの記念すべき長編一作目。

「人生の様々なことに精一杯で、苦しみ、悩みながらも熱に浮かされているような、青春時代特有のロマンチックな気質の持つ暗さという意味で、これはフィルム・ノワールだ。」



Irma Vep ©Vortex Sutra

### イルマ・ヴェップ *Irma Vep*

[フランス／1996年／98分／カラー／デジタル]

出演：マギー・チャン／ジャン＝ピエール・レオー／ナタリー・リシャール／ビュル・オジエ

現実とファンタジー、変遷する都市、映画の歴史…。引き裂かれ、揺れ動き、混沌とした場所を一人ポンテージに身を包んで徘徊するマギー・チャン。魔法のようなドキュメンタリーであると同時に、血が滴り落ちるフィクション。イルマ・ヴェップ (Irma Vep) とは、ルイ・フィヤード監督の連続活劇「吸血ギャング団」(1912)で活躍する女盗賊の名前であり、原題“Les vampires”のアナグラム。

「マギーは、物語の中のマギーと自分を重ね合わせたいと望み、自分自身をこの映画の中のシチュエーションに置き、本能的にその状況に応じることを望んだ。」

### 8月の終わり、9月の初め *Fin août début septembre*

[1998年／フランス／112分／カラー／デジタル]

出演：マチュー・アマルリック、フランソワ・クルーゼ、ヴィルジニー・ルドワイヤン、ジャンヌ・パリバル

編集者のガブリエルは、長年付き合ったジェニーと別れ、アンヌと付き合い始める。そんな時、敬愛している友人の小説家が病で倒れる……。親しい者の死の前に、生き残った者たちは、それぞれどのようにその死を受け止め、新たな人生を生きていくか模索する。

「現代において絵画における印象派のような映画への道、方法を探していた。日常生活とアートの実践が同じひとつのものであり、互いが淀みなく流れ、循環し合っていくような道を。そしてマチュー・アマルリックら、ヌーヴェルヴァーグの俳優たちが持っていた現代性、知性、自然さを兼ね備えた存在と出会い、映画が始動し始めた。」



Fin août début septembre ©D.R.

### 感傷的な運命 *Les Destinées sentimentales*

[2000年／スイス＝フランス／180分／カラー／35mm]

出演：エマニュエル・ベアール、シャルル・ベルリング、イザベル・ユベール、ジュリー・ドバルデュ

ジャンとポリーヌが初めて出会った時、彼女はまだ二十歳、彼は牧師。厳格なプロテスタントの良識ある上流社会に取り巻かれながらも、二人の運命はひとつに重なり合っていく。20世紀初頭の作家ジャック・シャルドンの小説を映画化。

「僕の心をつねに揺さぶってきたのは、時の移ろいであり、その中で人間関係がどのように生まれ、壊れていくのか、そして世界がどのように変化し、そこにいる者たちがいかに変化し、やがて物事が消えていくのかということだ。人生とは、それに価値があるか否かは別として、計り知れないほどの回り道を経て、最終的に自分自身へと立ち返る道のりなのだと思う。」



Les Destinées sentimentales ©D.R.

### デーモンラヴァー *Demonlover*

[2002年／フランス／120分／カラー／デジタル]

出演：コニー・ニールセン、シャルル・ベルリング、クロエ・セヴィニー、ジーナ・ガーション

スパイであるディアヌは、国際企業ヴァルフ・グループに侵入し、彼らの競争相手「デーモンラヴァー」との交渉を妨害しようとする。そのヴォルフ・グループは、3Dポルノアニメを製作する日本企業「東京アニメ」の買収の交渉を進めていた。ソニックユースが音楽を手掛けている。

「抽象的でコンセプトualなアイデアからスタートしたが、作品自体はもっと身体的で、具現化されてほしいと願った。僕にとって映画を作ることは、水の中に身を投げ、目の前のリスクを冒すことだ。映画におけるジャクソン・ポラック流の「アクション・ペインティング」的側面が好きだ。」



Demonlover ©Vortex Sutra

### クリーン *Clean*

[2004年／フランス・イギリス・カナダ／111分／カラー／35mm]

出演：マギー・チャン、ニック・ノルティ、ベアトリス・ダル、ジャンヌ・パリバル

歌手としての成功を夢見るエミリーだったが、夫をドラッグの過剰摂取で亡くしてしまう。愛する人を亡くした哀しみの中、幼い息子も手放すことに…。6ヶ月後、エミリーはもう一度全てをやりなおそうと決意し、息子との絆を取り戻そうとする。マギー・チャンは、本作で第57回カンヌ国際映画祭女優賞を受賞。「僕はマギーに、できるだけ落ち着き、抑制の効いた演技をしてほしいと伝えた。この映画では、感情は皮膚の下にひそみ、あからさまに表に出ることはない。本作が焦点を当てているのは、「悔い改めることの可能性」を観客がどこまで受け入れられるか、という点なのだ。」



Clean ©2004 - Rectangle Productions / Leap Films / 1551264 Ontario Inc / Arte France Cinema

」内のテキストはオリヴィエ・アサイヤスの言葉



L'Heure d'été ©Jeannick Gravelines

### 夏時間の庭 *L'Heure d'été*

[2008年／フランス／102分／カラー／35mm]

出演：ジュリエット・ピノシュ、シャルル・ベルリング、ジェレミー・レニエ、エディット・スコブ

パリ郊外。母エレーヌの誕生日を祝うため、画家である大叔父ポールのアトリエだった家に帰って来た3人の子供たち。陽光溢れる夏の庭での食事。楽しい時間にも関わらず、母はしきりに美術品の行く末を気にかけていた。それから1年後、エレーヌは静かにこの世を去る。フランスのオールセー美術館の設立20周年を記念して作られた三世代に渡る家族の年代記。アサイヤス自身の時間へのまなざしが多分に感じられる。

「僕は場所に魂があると信じている。この家は、物質的であると同時にアイデンティティを象徴する場所として、映画の中心にある。」



Carlos ©Film en Stock / CANAL+ / Photographe : Jean-Claude Moireau

### カルロス *Carlos*

[2010年／フランス／第1部104分・第2部112分・第3部124分／カラー／デジタル]

出演：エドガー・ラミス、アレクサンダー・シェアー、ノラ・ファン・ヴァルトシュテッテン

1970～80年代に世界を震撼させた伝説のテロリスト、イリッチ・ラミス・サンチェス(通称カルロス)の半生を、史実や報道をもとに描いた超大作。複数の偽名と人生を使い分け、当時の国際政治の複雑な動きを横断していったカルロスとは一体何者だったのか？ 複数の女性たちに愛され、彼女たちに守られながら逃走を続けた男の正体とは？ 70年代の武装闘争は複数の国、文化の交差点で行われ、世界的な流れとなっていたが、そうした国際的な規模で起こった出来事、動きを見事に捉えながらも、親密な人間関係も繊細かつ官能的に描き上げたアサイヤスの頂点ともいえる作品。



Après mai ©Guido Cacialli

### 5月の後 *Après mai*

[2012年／フランス／122分／カラー／デジタル]

出演：クレマン・メティエ、ローラ・クレトン、キャロル・コンブ

1970年代初頭——まだ革命の余熱が街角にくすぶり、若者たちの胸の奥で理想が燻っていた時代。物語の中心にいるのは、時代の奔流に身を投じる高校生たち。イデオロギーの嵐のなかで揺れ動きながら、友情が試され、恋が芽生え、そして傷つく。それは政治的な目覚めの物語であると同時に、ひとりの人間が初めて他者を愛し、世界と向き合おうとする通過儀礼の物語でもあった。ヴェネツィア国際映画祭・脚本賞受賞。

「この映画では、場所と感情が、光のただなかでともに息づいている。」



Sils Maria ©2014 CG CINEMA - PALLAS FILM - CAB PRODUCTIONS - VORTEX SUTRA - ARTE France Cinema - ZDF/ARTE - ORANGE STUDIO - RTS RADIO TELEVISION SUISSE - SRG SSR

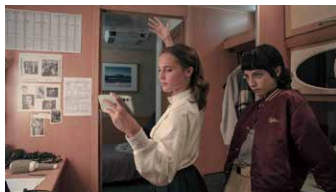
### アクトレス 女たちの舞台 *Sils Maria*

[フランス／2014年／124分／カラー／デジタル]

出演：ジュリエット・ピノシュ、クリステン・シュワート、クロエ・グレース・モレッツ、ラース・アイディンガー

十八歳のとき、マリア・エンダースは舞台上で成功を収めた。彼女が演じたのは、妖しい魅力をたたえた野心的な若い娘ジューグリッド。成熟した女性ヘレナを破滅へ——ついには自死へと追い込む役柄だった。それから二十年後、同じ戯曲への再出演が持ちかけられるのだが……。

「ある風景における過去と現在の対峙——それが私に着想を与えた。そこに刻み込もうとしたのは、ひとりの女優の喜劇、あるいは見る者の視点によっては悲劇である。」



Irma Vep Episode 1 & 2 ©2023 Home Box Office, Inc. All rights reserved. HBO® and all related programs are the property of Home Box Office, Inc.

### イルマ・ヴェップ〈エピソード1&2〉 *Irma Vep Episodes 1 & 2*

第1話 首のない死体 (55分) / 第2話 殺しの指輪 (52分) [2022年／フランス・アメリカ／カラー／デジタル]

出演：アリシア・ヴィキャンデル、ヴァンサン・マケニュー、ジャンヌ・パリバル、ラース・アイディンガー

アメリカでヒット作の撮影を終えた人気女優のミラは、フランスのサイレント映画『レ・ヴァンピール』のリメイク版で主役を務めるためパリへ渡る。ミラは危険な魅力を秘めた女性悪役「イルマ・ヴェップ」に入り込むうちに、次第に現実と映画の世界の境界が揺らいでくる。監督のルネやドイツ人俳優ゴットフリートらも撮影が進むにつれて映画製作の現実、フィクション、それぞれの人生の境界を彷徨っていた。

「可視、不可視なもの、笑い、パロッドクス、ドラマといった様々なテーマが展開する作品であり、今日の映画の状況について何かを語っている映画でもある。」



Le Diable probablement ©1977 GAUMONT

### 【オリヴィエ・アサイヤスの人生の一本 Le film de sa vie】

#### たぶん悪魔が *Le Diable probablement*

[1977年／フランス／カラー／デジタル／97分]

監督・脚本・台詞：ロベール・ブレッソン

出演：アントワヌ・モニエ、ティナ・イリサリ、アンリ・ド・モーブラン、レティシア・カルカノ

ある青年が頭部に2発の銃弾を受けて死亡しているのが発見された。彼の名はシャルル。彼は友人たちと、環境汚染、浪費、飢餓、戦争など、世界を脅かすすべての問題について終わりのない議論を交わしていた。彼は仲間の中で最も急進的で、そして最も絶望していた。

「この映画は驚くべきほど現代的な恩寵であり、反抗、急進性、詩、そして政治性によって刻印された作品だ。公開当時、10代でこの作品を観て、正面から衝撃を受けた。その発見のほとんど身体的ともいえる記憶は、僕に強烈な印象を残した。」